



～もっと地域と もっと地域へ～

かがやくえがお

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

第12号

令和8年 6月22日
長崎市立小島小学校
校長 桐山 充晴

土曜授業参観 引渡し訓練へのお礼



先週土曜日からスタートした「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、授業参観及び懇談会を実施しました。たくさんの方の来校をいただき、感謝申し上げます。

6月20日(土)だけで、200名を超える地域・保護者の方々が足を運んでいただけましたので、子供も教職員も大変励みになりました。ありがとうございます。私たち大人も同じですが、子供たちは、見てもらえることで張り切り、いつもの何倍かの力を発揮します。そして、皆様から褒められることで、いつもの何倍も成長をします。「自己肯定感」というちょっと難しい言葉を使うと、身近な人から褒められることで、自分の存在意識が育ちます。簡単に言うと、「ぼく（私）もまんざらじゃない」という感覚です。この自己肯定感が「自律」や「向上心」を生み出していきます。いくつになっても向上心は必要で、日常生活を円滑にする潤滑油となります。皆様の御協力に改めて感謝申し上げます。



また、その後は全校での「心を見つめる集会」も御覧いただき感謝申し上げます。その集会では、校長講話として「いのち」をテーマとして伝えました。内容の抜粋を次頁に載せますので、ぜひ、御家庭でも話題にいただければと思います。

さらに、引き渡し訓練までの待ち時間を利用して、保護者の皆様へも集会の目的や育ってほしい子供の姿等を話させていただきました。かけがえのない大切な命です。「いのちが輝く生き方」をしてほしいと願っています。今後とも御協力よろしく願いいたします。

【心を見つめる集会】

子供たちに「いのち」についてポイントとして、以下のような話をしました。少し長い時間だったので、低学年はきついのではないかと心配しながら話しましたが、どの子もしっかりと落ち着いて話を聞くことができました。

①「いのち」に感謝する

「いのちがあること」「生きていること」「生かされていること」は決して当たり前のことではなく、「ありがたい」こと。感謝の心をもって生活すること。

②大切な「いのち」を使って、一生懸命に生きていく

「見る」「聞く」「話す」「動く」などのすべてが、「いのち」があるからこそできること。その一つ一つを、毎日を一生懸命に生きることが「いのち」を大切にしているということ。

③「いのちの使い方ルール」を守る

「自分のいのちを大切にする」「周りの人のいのちを大切にする」「みんなのいのちを守り合う、生きることを支え合う」こととし、暴言や暴力、差別などをなくし、明るい心で挨拶を交わしたり声を掛け合ったりすること。

④「言葉」を大切にする

自分の思いを伝える言葉には、「温かさ」だけでなく、時として「冷たさ」も伝わる。「言葉」は自分の思いと違って伝わることもあるので、人を傷つけることがないようにしっかりと考えて使うということ。

【引き渡し訓練】

保護者の皆様の御協力のもと、無事に終了することができました。大きな混乱もなく、子供たちを確実に引き取っていただくことができ、当初の目的を達成することができました。御配慮いただかないといけないところや、御迷惑をおかけしたところもあったと思いますが、御理解いただき、本当にありがとうございました。今後は、反省点に改善を加えながら、備えを十分にしていきます。

学校は、子供の安全が十分に図られ、安心して登校でき、穏やかに学校生活を送ることができることが一番です。今後ともよろしくお願いいたします。

【校長講話（抜粋）】

今日から、私たち小島小学校では「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。

これまでも何度も伝えてきたように、基本は「自分の命は、自分で守る」ということです。みなさんには、命がありますね。その命は大切なものですか。どれくらい大切に思っていますか。何か他のものと比べることができますか。比べることができないくらい大切に思っているでしょう。

それでは、そんなにも大切な命があることに、みなさんは感謝したことがありますか。たぶん、ほとんどの人が、改めて感謝したことはないと思います。

それは、命があることが当たり前のことだと思っているからなのです。人は、特別なことには感謝しますが、当たり前のことにはあまり感謝しないのです。普通に毎日生きているので、命があることを特別考えないので、感謝の気持ちもわいてこないのです。

みなさんが動いたり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりできるのも、話したり、走ったり、食べたりできるのも、生きているからこそ、命があるからこそできるのです。今命があること、生きることができていることは決して当たり前ではないのです。だから、**今命があること、生きることができていることに感謝しなければならない**と思います。

ところで、みなさんは、毎日学校でいろんなことを学んでいます。学ぶことの本当の目的は、いい成績を取るためだけにやっているわけではありません。**よりよく自分の命を使えるよう私たちは学ぶのです**。よく「人に迷惑をかけないように生きなさい」と言いますが、それは難しいです。「人に迷惑をかけない生き方」ではなく、「**人の役に立つ生き方**」をしてほしいと思っています。それが私たちの「命に与えられた役割」です。

ここで、「命の使い方」について、聞いてほしい話があります。

ここはどこだと思いますか？ エジプトのナイル川です。川の長さ 6700Km、川の幅は、狭いところでも 500m、広いところだと 50Km もあります。そこに暮らすアリの集団 3000 匹が、餌を求めて川を渡ろうとします。アリは泳げません。さて、どうやって渡るのでしょうか？



アリは、お互いが離れないようにしっかりとつながり、大きなボールのような塊を作ります。これをアリボールと呼びます。そして、水に入ります。そのとき、3 分の 1 は水面から出ているのですが、残りの 3 分の 2 は水の中にいます。このままでは 2000 匹のアリは死んでしまいます。そこで、水面のアリは、次第に水の中に入り、その代わり水の中にいたアリが、水面に浮かび上がります。このように交替しながら、潜ったり、水面に浮かんできたりして、3000 匹みんなが息をするのです。もしも、水の上にいる 1000 匹のアリが、自分だけ楽をしようとして、いつも水面上に出ようとするなら、2000 匹のアリは死んでしまい、ついには 3000 匹みんなが全滅してしまうことになるのです。

このように、アリボールをつくり、水面と水中を交替しながら川を渡るのは、**生きるためのアリのルールであり、知恵でもある**と思います。



小島小学校には、276 名のみんなが生活しています。アリの 3000 匹の集団に比べたら、随分少ない人数です。小島小には、アリボールのような、**みんなが協力して生きていくための知恵やルール**はあるでしょうか？あるとすれば、どんな知恵でしょうか？どんなルールでしょうか？そして、その知恵やルールは、生かされているのでしょうか？

そこで、今日は、命を大切にすることや、**命の使い方についてのルール**を確認したいと思います。

①**自分の命を大切に**する（自分から、命を絶ってはいけない・・・自殺 命が危険になることはしてはいけない・・・信号無視、禁止された遊びなど）。

②**周りのみんなの命を大切に**する（命を奪う・・・殺害 命を危険にさらす・・・暴言「死ね」

「うざい」「消えろ」 暴力（叩く、蹴る、押し倒す、刃物尖ったもので突くなど）。

③**みんなの命を守り合う、生きることを支え合う**（人の命を差別しない・・・悪口、無視、仲間

外し、指示命令 明るいい心でみんなの命と付き合う・・・挨拶を交わす・声を掛け合うなど）。



この中で、みなさんに今からすぐにできることがあります。それは「**言葉を大切に**する」ということです。言葉は大切にしなければ自分の思いとは違って伝わってしまうことがあります。

ここにいる 276 人が、「学校楽しいな！よし、今日もがんばろう！」という思いで学校生活を送ることができるよう、もう一度自分の行動や言葉を振り返りましょう。みんながこんなことができる小島小学校になると素晴らしい毎日が過ごせると思います。

小島小の 276 名は、性別も見た目も、好きな食べ物も、得意なことも、苦手なことも、みんな違います。共通していることもあります。そうです、みんな大切な命をもって、みんなで支え合って生きているということです。**みんなが、気持ちよく、お互いを認め合い、助け合い、励まし合いながら生活できる小島小学校でありたいと、校長先生はいつも願っています。**



今日の集会で考えた「小島小命のルール」をみんなで心掛けて、276 人の命がキラキラ輝く毎日にしていきましょう。アリにだって、できているルール、人間の私たちにできないことは絶対にないと確信しています。